

# むきぼんだ花だよ！ 9月

2017. 9. 2



本日は、雨模様ですが、先月会員が作成した樹木の名札を該当木に取り付け作業する日でした。作業開始前に雨が大きくなり暫らく待機。多忙のため久しぶりに出席の鷺見寛幸先生「大山町教育長」に、近年話題に上り、最近も新聞やテレビで取り上げられた、大山の宝『ヒメボタル』《平井県知事の言による。》の話を頂いた。第一発見者の鷺見先生の話は体験に基づく話題で面白く、興味深く聞くことが出来ました。ヒメボタルの幼虫は陸上で育ち、7月20日前後、夕方8時頃に、大山の9号目付近のキャラボク純林の中で光を放つ、頂上付近の成虫の体長は♂7~8mm、♀8~10mm位で雌は飛べない。環境が厳しく餌を食べる期間も少ないのになぜ龍のヒメボタルより大きいのか。幼虫は陸上で何を食べているのか、(巻貝のダイセンマイマイやナメクジか?) いろいろ解らないことや疑問の多いヒメボタルのようですね。.

来年は、ヒメボタルの乱舞を見たいですね。

樹木名を聞いた木札を取り付ける風景 (上ノ平)、芥生の畑広場、2017.9.2.

## 《植物外のため、番外》

◎ダイセンマイマイ・分類 オナジマイマイ科

和名、ダイセンシキマイマイ

○名前の由来:大山で発見され錦色をしたマイマイという意味です。○1930年、大山の山頂近くで発見されましたが、この付近より鳥取県東部の多く産します。中国山地の自然度の高い広葉樹林に生息しています。大山を中心に兵庫県の一部と鳥取、島根、広島、山口の各地の山間地で分布している、絶滅危惧Ⅱ類にランクされる貴重な生き物です。これによく似たイズモマイマイも生育しています。○形態特徴:殻高は高く殻質は強固であり、黄褐色から黒褐色の殻色で淡黄色の火焰彩模様美しい。軟体部背面中央に、黒く幅の広い縦条を持つのが特徴です。○ヒメボタルの幼虫の餌と云われています。

(生物学の分類では一応「軟体動物」、「腹足類」に属します。



～ホタル(蛍)について～

国立公園・大山(標高1729m)山頂付近でホタルの目撃情報があり、2007年7月19、20日に現地調査が行われました。結果、数1000匹のヒメボタルが生息していることがわかりました。1700m級の山頂付近で見つかったのは初めてのことであります。

【日本百名山のひとつ伊吹山(標高1377m)にも生息しているようです。】○世界にはホタルは約2000種いて、幼虫が水性のホタルはわずかに5種。日本には46種、うち水性のホタルは3種(ゲンジボタル・ヘイケボタル・クメジマボタル)です、ヒメボタルは陸生のホタルです。ほとんどのホタルの幼虫は夜行性で光ります。ホタルの成虫の大きさはゲンジボタル>ヘイケボタル>ヒメボタルの順で、オスよりメスが大きい、ヒメボタルだけは、メスは大きい羽根が退化してとべません。

**今年のシーズンには間に合いませんでしたが次のシーズンに備えて、ホタルの「ヒミツ」を調べてみました。**国内に広く分布している種類としては「ゲンジボタル」・「ヘイケボタル」・「ヒメボタル」が挙げられます。基本的に幼虫時代にカワニナ・タニシ・マイマイと云った巻貝を食べ、成虫になるとろうじて水を飲める程度に口は退化し、1~2週間の間は幼虫時代に蓄えた栄養のみで繁殖活動を行い、その生涯を終えるのだそうです。この事は、最初の発生報告から1~2週間がその場所で蛍が見れる期間となります。

★ゲンジボタル

日本で見られるホタルの中では大型(体長は12~18mm位)です。成虫の複眼は大きく丸くなっており前胸部のピンク部分に黒い十字の様な線があるのが特徴です。主に溪流のような清流に生息しています。メスのほうが体が大きく、発光する部分はオスが2か所(第6腹部と第7腹部)なのに対し、メスは1か所(第1腹部)だけ発光します。交尾を終えたメスは川岸の木や石のこけに産卵(800~1200個)します。卵が黄白色から黒くなると、幼虫は卵の中で発光し始めます。やがて生まれた幼虫は川の中に移動し、カワニナを食べて成長し、次の春の時期になると川岸の柔らかい土に潜って蛹を作り蛹になります。5月から6月になると羽化し、夜間に発光(2~3秒毎に光る)して相手を探します。○ 名前の由来: 諸説あり、無念の最後を遂げた源頼政の思いが蛍に例えられたり、「源氏物語」の主役である光源氏にかけた説が有力です。



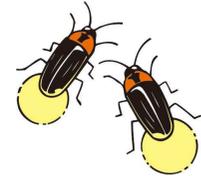
★ヘイケボタル

ゲンジボタルよりも小型(体長は7~10mm)で、ゲンジボタルと異なり多少汚れた水でも生息する。主に水田、湿原の止水域を中心に生息し、幼虫の時はモノアラガイなどを食べています。成虫のピンク部分に黒く太い線があるのが特徴です。雄の発光の明滅はゲンジボタルよりも早く、発生期間も長いのでゲンジボタルと入り混じって飛び交うことが多いようです。発生期間は長いものの、密度は高くないので、ゲンジボタルのように短時間で大量に発生することはない。成虫は水辺のこけに、およそ50~100個の卵を産んで死にます。○多少汚れた水域でも生息できるが、農業や水田周辺の環境変化に伴って生息環境は狭まっています。○名前の由来: ゲンジボタルに対比する意味で「ヘイケ」と名づけられたという説が有ります。「注」モノアラガイは小さな巻貝で水田の水底や水草に付着し、時々浮いて空気を呼吸する。鳥取県の準絶滅危惧種。

★ヒメボタル

ヒメボタルはヘイケボタルより一回り小さく、(大山山頂付近のヒメボタルは、♂7~8mm♀8~10mm・大山寺付近♂5~6mm♀7~8mm・山頂の方がやや大きい、何故だろう?)、雄の成虫は前胸部のピンク部分にゲンジやヘイケのような黒い筋でなく前方が少し黒ずんだ色をしています。対して雌は黒い斑点が2つあるのが特徴です。また、雌は羽が退化しているために飛ぶことが出来ません。幼虫は水の中でなく森林内に生息することが多く、主にカタツムリなど(大山ではダイセンニシキマイマイやナメタジを食べ、ヒダノガリヤスが布団の役目をして生息できる条件がそろっています。)を食します。○5~6月に羽化し、ゲンジボタル・ヘイケボタルが緑色を帯びた発光なのに対し、ヒメボタルは黄色を帯びた発光をします。明滅もゲンジ・ヘイケはゆっくりですが、ヒメはパッパッとテンポ良く、0.8秒ごとに明滅します。

「注」ヒダノガリヤスは高山地方に生えるイネ科の多年草。



★クメジマボタル

沖縄の沖縄県指定天然記念物に指定されています。●久米島だけに棲息するゲンジボタルの一種で水性です。前胸部がオレンジ色なのが特徴です。~以下以下省略~



—お奨めのホタル観賞スポット—

- ◎金田川ホタルの里「西伯郡南部町金田」(無料) 毎年シーズンになるとゲンジボタル見る事が出来ます
- ◎日南町福万来「日野郡日南町福万来」 県内でも有数のホタル観賞スポットで、主にヒメボタルを観賞することができ、専用の駐車場も有ります

★むきばんだを歩く会★

- 指導: 鷺見寛幸先生 (鳥取県自然観察指導員)
- 毎月第1土曜日午前9時30分~正午
- 入会金 2000円 毎回資料代 500円 入会費も、どなたでも入会可能です
- 問い合わせ: むきばんだ応援団「むきばんだをあるく会」